



上末っ子

令和5年10月31日

11月号

横浜市立上末吉小学校

～ 学び合い みとめ合い 一人ひとりが輝く上末っ子 ～

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamisueyoshi/>



学校ホームページ用 QR コードです。学校の様子をご覧ください。

“本気”のかっこよさでつないだ『きずなバトン』

校長 内田 宏平

応援団の中でも貫禄のある偉大な団長には特に強い憧れがありました。団長になれた喜びは表現できないほどとても大きいものでした。

実際には、大変なこともあったけれど、目標は高いほど達成感があります。本気で練習し、本気で本番に臨むことができたので、達成感は非常に大きいものでした。応援してくれた地域や保護者の皆さん、本当にありがとうございました。皆さんの応援のおかげで最高の運動会を作り上げることができました。

下級生の皆さん、「きずなバトン」を周りに渡すことはできたでしょうか。僕はできたと思います！

白組団長

全校の皆さん、運動会お疲れさまでした。先生方や保護者の皆さん、地域の皆さん、今年も素晴らしい運動会を開催していただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

僕たち赤組は、結果負けてしまったけれど、「絶対に勝つ」という強い信念を持ち、みんなで一つになり最後まで全力で戦ったので、この勝負に悔いはありません。

下級生へ。もし応援団をやりたいと思ったら、ぜひ立候補してください。この達成感は挑戦した人にしか味わえません。一生の宝物になることを約束します。

赤組団長

9月28日に行った応援集会で、私は感動していました。応援団の“本気”のかっこよさに、すっかりやられてしまったのです。体育館のステージから全校児童に呼びかける団長の気合。心を合わせた団員の動き。目の当たりにした低学年の子どもたちは、その迫力にあっけにとられた表情でしたが、次第に、「かっこいい！」という憧れの眼差しになっていきました。校長室に聞こえてくる各学年の練習の声も、この日を境に一段階迫力が増したように感じられました。応援団の“本気”が全校に伝播したのでしょうか。

10月20日。運動会前日に、5・6年生が体育館で最後のソーラン節練習をしていました。グループに分かれ、6年生が5年生に、振付けの細かいところも具体的に伝えていました。実際に動いて見せてアドバイスしていました。私は目頭が熱くなりました。これまで、本校伝統のソーラン節は、6年生の演技として披露してきましたが、今年度から5年生も一緒に取り組む形に変更しました。学校のよき伝統や文化を、高学年チームでダイレクトに伝えてもらいたいという願いや期待があつての変更でした。・・・子どもたちは見事にやり遂げてくれました。6年生の“本気”を5年生がしっかりと受けとめ、最高に熱いソーラン節が完成したのです。

そして、運動会本番。各学年の競技や演技、徒競走、応援合戦、開閉会式、高学年の運動会チーム（係）等々、運動会のあらゆる場面で子どもたちの“本気”が胸に響きました。児童会テーマに掲げている『きずなバトン』をはっきりと感ずることもできました。

声援を送ってくださった保護者の皆様、ご来賓の皆様、本当にありがとうございました。大人が温かく共感的に見守る中でこそ、子どもたちは安心して成長していくのだということを実感しました。



5・6年生ソーラン節披露前に円陣。高学年の意気込みが伝わってきます。

ソーラン節を真剣に見入る後輩たち。

